

こども新聞
週刊がほピョンプレス



きょうのテーマ

ふわふわした緑の植物「コケ」で地域を盛り上げる取り組みが、宮城県栗原市で進んでいるよ。栽培やイベントを通して「コケの聖地」を目指すんだって。国連の持続可能な開発目標(SDGs)の



地球のためにできること

コケで地域活性化

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ



コケの成長を確認(かくにん)する高橋さん

栗駒山の麓にある自然豊かな栗原市栗原文字



8番目「働きがいも経済成長も」に通じるんだ。

8 働きがいも経済成長も



聖地目指しブランド化へ

地区。地元を生産者団体「文字苔っこの会」が、ハイゴケやウマスギゴケ、コウヤノマンネングサなど6種類のコケを栽培しています。

「文字地区は谷あいにあるので、適度な湿度や風で良質なコケが育つ」と会長の高橋誠さん(74)は説明します。収穫したコケはコケ玉にして、地域の観光拠点施設で販売するほか、



栗原市内で栽培したコケを使ったテラリウム

約6年前、都市部のコケブームに着目した県北部地方振興事務所栗原地域事務所が呼びかけ、苔っこの会や地元の森林組合が本格的に栽培をスタート。「コケなんてどこにでも生えるのになあ」と思ったけど、ルーペで見ると形が面白くて愛着が湧いた」。高橋さんは当時を振り返ります。栽培やテラリウムの専門家を招いた勉強会を開くなど、栗原地域事務所も聖地化を後押ししてき

ガラス容器に小石やミニフィギュアを置いて小さな庭を作るテラリウムに使われます。苔っこの会のテラリウム講座は、市内の小学校で人気です。

ました。毎年秋にある「苔フェスティバル」は、地域の人や全国の愛好家に親しまれるイベントに育ちました。

販路の拡大にも明るい兆しが見えます。苔っこの会が育てたコケが今年から、ビルの屋上緑化を手がける山形市の会社に出荷されることになりました。「文字のコケをブランド化したい。安定した収益があれば地域が活性化するし、都市のヒートアイランド化の抑制にも役立つ」。高橋さんは期待を寄せています。

栗原市の栗駒山麓ジオパークビジターセンターで26、27日、栗原苔フェスティバルが開かれます。26日はテラリウム体験(事前予約制、有料)やコケの展示販売あり。連絡先は栗原地域事務所02228(222)21333。

今週の注目ニュース

◇19日(土) 晩翠忌
「荒城の月」の作詞で知られる、仙台市出身の詩人土井晩翠(1871~1952年)の命日。晩翠は数百曲に上る全国各地の校歌を手がけたほか、旧制二高(東北大)の英文学者としても活躍しました。

かほくの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 かほく防災記者レポート